

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 グループホームつばさ原町 - 八幡)

事業所番号	0691600035		
法人名	株式会社 ユニバーサル山形		
事業所名	グループホーム つばさ原町		
所在地	天童市大字原町145-1		
自己評価作成日	平成32年1月15日	開設年月日	平成26年 3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人員基準より少し多く職員を配置している事で、職員にとっての働きやすさは、利用者様に対するきめ細やかなサービスを実現可能としている。マンツーマンとはいかないが、利用者様の満足感や充実感を上げる為に日々のレクリエーションや、定期的な外出もマンパワーだけではなく、恵まれた環境、地域資源も含め、可能な限り活用している。また小規模多機能と併設しており、気軽に交流ができ一緒に行事を行うなど楽しく生活している。そうした環境の中で開設時に掲げた理念を元にしながら利用者の方々が『明るく・楽しく・笑って』過ごせるように日々取り組んでいます。また、系列事業所の理学療法士等が週2回訪問してくれ利用者の心身機能の評価やリハビリを行っています。ADL自立されている方とADL低下が見られる方と混在しておりますが一人ひとりのペースで元気に楽しく過ごしていただけるように支援していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に掲げた「明るく・楽しく・笑って」「その人らしい生活」「地域との交流」の実現に向け、管理者と職員は目標を持ち取り組んでいる。特に外出に力を入れ、多様な企画を実行に移している。散歩やドライブのほか車いすを使用して利用者全員を天童から山形駅まで電車の旅をし、車窓からの花見、駅ビル内での食事を楽しむというイベントは利用者一人ひとりの笑顔を引き出すことができた。地域との交流は町内会への参加で情報収集が容易になり、行事や地域防災訓練にも参加している。遠出してきた学童クラブの小学生に休憩場所を提供し、利用者との交流の時間を持ったり、事業所主催の秋祭りの収益を地元小学校への図書購入のために寄付するなど幅広く、濃密な交流が広がっている。管理者はできないと諦めず、どうしたらできるかとの視点に立ち、創意工夫しながら努力している。自分や自分の父母が利用したくなるような施設づくりを目指している事業所である。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和 2年 2月 28日	評価結果決定日	令和 2年 3月 16日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時の基本理念の唱和を出勤者全員で行っている。	事務所に掲示した基本理念を毎朝唱和し、確認している。管理者と職員は利用者が明るく楽しく過ごせるよう、一人ひとりに寄り添い思いをくみ取りながら笑顔を引き出し理念の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設内外の行事への参加は積極的に行っている。また地域の学童行事の休憩所として、施設を利用して頂くなど、認知もされている。	町内会に加入し総会出席やお祭り、しめ縄作りへのお誘いがあった。マジックショーや歌・踊りのボランティアグループの毎月の来訪、地元高校の演劇、吹奏楽のパフォーマンス、さらに学童グループの小学生の遠出の休憩所として施設を提供し交流している。また事業所主催の秋祭りには地域の方々が参加しその収益金を地元小学校に寄付している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流を通して、車椅子の移乗や声かけなど行っている部分はできている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の課題でもあった、利用者の家族様が会議に参加する事は叶わなかった。また、期中で開所当初よりお世話になっていたメンバーの交代もあり、報告中心の会議となってしまった。	地区長会代表、民生児童委員、地区包括支援センター代表、天童市職員と事業所管理者等で年6回開催されている。前回目標達成計画に掲げた家族代表の参加は、予定していた人が都合により参加できなかったが、管理者はその重要性を認識しており、今年度は新たなメンバーに依頼すべく努力している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護相談員の方が定期的に来所し見学頂いたりアドバイスを貰っている。利用者様との顔見知りとなり情報交換が活発に行われている。	市職員からは運営推進会議への出席時に事業所の実情を聞いてもらいアドバイスを受けている。また2ヶ月に1回市の介護相談員の訪問があり、主に利用者と話し合いを持っている。市の職員とも協力関係が築かれている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備	管理者から代表者への報告はもちろん、場合によっては代表者が職員に個別に聞き取りをし、より働きやすい職場を目指し環境整備に努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会があれば情報を提供し、施設内外研修を受ける機会を確保するだけでなく、研修によっては出勤扱いで研修参加を認めるなど研修を受けやすい環境が整っている。	新人に対してはマンツーマン指導を1ヶ月行っている。毎月のユニット会議では当番を決めて勉強会を行ったり、外部研修を受けた職員による報告をしている。年一度管理者や代表との個人面接を行い、スキルアップに繋げている。この一年間職員が定着する傾向にある。社員旅行を敢行できたことで相互理解やチームワークなど得たものがある。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同法人内での情報交換だけでなく、他施設との交流研修等に参加する事で同業者との交流する機会を得ている。	グループホーム連絡協議会に加盟し、会議や研修を通してネットワークを築いている。交換研修は以前参加したが2019年は実績はない。同法人内にグループホームなど4施設あり、毎月会合を持ち細やかな情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時の情報を事前共有した上で、ご本人と話しながら心配ごとなどを引き出し安心して利用して頂けるよう工夫している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスに繋がる前段階で家族の不安や悩みをお聞きし、ケアプランに反映したり、来所時に会話を通して関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活でご本人の要望や来所時の家族との面談で、サービスについてどのような支援を望まれるかを聞くようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれに役割を担って頂き、共同生活される利用者様同士の信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様への連絡・報告を密にし、ご本人との距離が離れない様、努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話を通して、馴染みの関係性が途切れないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア内の席は固定ではなく関係性に応じて、席の見直しを適宜行い孤立しない様、努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話が主ではあるが、終了後の様子をお話頂く機会があった際には傾聴し、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを考慮し、可能な範囲で支援を行えるよう努めている。	アセスメントはセンター方式Cシートを取り入れて、好きなこと、やりたいことなど本人の意向を把握し、また日頃の会話や言動から本人の思いを汲み取り、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしについて情報を職員間で把握し、サービスに生かしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に差がある生活リズムやペースに注視しケアを行うよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	急を要する場合は、その都度電話にて、あるいは面会時に情報提供し相談に応じ、職員と課題を見出し、計画に反映させている。	モニタリングは短期計画終了時の3か月、長期計画終了時の6か月後に行い、その結果をユニット会議で話し合い、次の計画に反映させている。計画の見直しに当たっては本人・家族から意見を聞き、本人のできることを取り入れながら全員で意見やアイデアを出し合い、生活が見える介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等をその都度記録に残し、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	活用できる地域資源(地域住民との関わりなど)を可能な限り利用し、生活充実に努めている。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診に来て頂く医院も複数設ける事で、適切な医療を受けられる様、努めている。	原則、本人・家族の希望するかかりつけ医としているが、往診可能な医療機関に変更することが多い。受診の際は原則家族にお願いするが、職員が付き添うこともある。受診結果は必ず家族に伝えている。月2回複数の医療機関から往診があり変化のある場合はすぐに連絡する。通常結果は電話や月1回のお便りで家族に知らせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	週に一度、訪問看護の看護師との間で情報共有している。日常的な事については毎日職場内の看護師への相談報告を行っている。		
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院後は病院へ面会し、現況確認するとともに情報を共有している。		
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	早い段階での家族との話し合いは往診の先生からの提案により実施できており、その後の対応についても協力体制を図りながら実現できている。	契約時に重度化した場合や看取りについて家族へ説明している。既に3名の利用者の看取りの実績を有している。併設の小規模多機能施設の看護師、法人のサテライト訪問看護、かかりつけ医と連携し、サポートを受けている。	
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	AEDが設置されている事や緊急時の対応マニュアルの理解について把握しているが、いざ使うとなると不安が残る。		
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	避難訓練を行い、利用者様が安全に避難する方法を確認している。	年2回内1回は消防署の参加を得て避難訓練を実施している。事業所が2回の構造上、はしご車を使い2階事務所の窓からの退避方法のアドバイスを受けた。自家発電も準備されている。水害に関してはハザードマップを確認している。地域の防災訓練にも参加し地域との連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、プライバシーの確保をしっかり守っている。声がけ言葉遣いに問題がないか確認している。	人格を尊重し、言葉遣いを重視している。慣れから来る乱れには細心の注意を払い、不適切な言葉かけがある場合は、管理者が直接注意したり、ユニット会議で話し合っている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位ではなく、利用者本位を心掛けている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間など決まった時間はあるものの、ケースバイケースで状況判断をし、利用者のペースに合わせ支援する様、努めている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後だけではなく、日ごろから爪やひげが伸びていないか、気を付けている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備片付けは利用者と一緒に行動を心掛けている。食事の際は職員も一緒に席につき、会話を楽しみながら見守りを行っている。	2年前から業者のチルド食購入に切り替えているが、朝の味噌汁と昼の一品は事業所で作り、利用者もできることに参加している。おやつホットケーキや”なたまき”などを職員と一緒に作ったり、行事食、誕生祝い、さらに出前や冬期を除き月1回の外食など多くの「食べる楽しみ」の機会を作っている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は各利用者様に合わせて提供している。水分量についても毎日管理を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前のうがい、食後の口腔ケアを徹底している。また本人に任せきりではなく、職員見守り又は支援している。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンの把握やおむつの必要性を精査するとともに定期的にトイレ誘導を行い、失禁軽減に繋げている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。現在、夜間帯のみおむつ使用者が一名いるが、日中はいない。トイレ誘導の効果があって、おむつがリハパンツに変わった利用者もいる。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日軽体操を行ったり、水分摂取の促しや、便秘日数を常時管理し服薬による排便コントロールも行っている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本の曜日を設定し、ご本人に説明し、入浴してもらっている。尚、汚染時には適時入浴して頂くようにしている。	浴槽は一般浴と機械浴の2種類があり、身体機能に合わせて安全に入浴することができる。原則として週2回入浴支援している。景色が見渡せる窓辺に足湯が設置されレクリエーションとして利用している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッド以外にも、ソファで休憩を取って頂いたり、マッサージチェアも有効活用している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬を業務として行うだけではなく、薬情により情報を共有し理解に努めている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族や見学にいらした外部の方々より利用者が生き生きとされているとお褒めを頂く事がある事からも様々な活動を通して支援を行っている。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に戸外へ出かけたり、家族の協力も得ながら、積極的に支援を行っている。	月1回以上の外出が行われている。JR奥羽線に乗って山形まで全員で行ったことは画期的なイベントだったが、地域の露天風呂での入浴もある。利用者が風を感じて生活できるようテラスにテーブルを出してお茶を楽しんだり、ひまわりやコスモスが植えられた庭、地域の有志が協力してくれている自家菜園など多岐にわたる外出の機会を創出している。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要最低限のお金でレクリエーション時に使っている。(初詣や秋祭りの買い物など)		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者によっては頻繁に電話要求される事もあるが、家族との約束を交わし、可能な範囲で対応している。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾等で季節感を出しつつも、不快にならない様、清潔感も含め配慮している。乾燥する時期には加湿器を導入し、健康管理にも注意する事で居心地の良い空間になる様、努めている。	リビングの中央には大きな七段段飾りのお雛様が置かれ、季節の行事を感じることができる。壁にはいろいろなイベントの思い出の写真や、季節に合った歌の数々の歌詞が貼られ、皆で歌って楽しんでいる。また大型の加湿器が設置され温度、湿度の管理が行き届いている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	パーティションを外し、オープンな空間を作る事で、気の合う人同士寄り添ったり、独りになれる場所の選択肢が増えるよう、配慮できている。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を居室内に置いたり居心地よく過ごせる居室作りを利用者本人と家族に相談し実現している。	ベッド、たんす、テレビ及びエアコンは事業所の設備であるが、ハンガーラック、座椅子、椅子、仏壇などを持ち込み、利用者は居心地よい自分の部屋作りをしている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を第一に考え、やれる事ができる生活の場となる様、支援している。			